

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	14930002198	事業の開始年月日	平成24年3月31日	
		指定年月日	平成24年3月31日	
法人名	社会福祉法人愛成会			
事業所名	ヴィラ愛成			
所在地	(〒242-0017) 大和市 大和東 1-13-17			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ヴィラ愛成グループホームでは、これまでの実績や献身的な介護を評価され、県から優良介護サービス事業所に認定され「かながわ認証」を市内のグループホームとしては初めて受賞しました。

ゲストに過ごしやすい環境や楽しい一時を提供するため、職員が中心となり毎日のレクリエーションやイベントを企画し実践しています。その中で外出や料理レク等のレクリエーションを充実させています。

地域連携にも力を入れていて小学校やNPO法人と協力したエコキャップ集めやベルマーク提供、街並み清掃等も行っています。

職員教育では、『人間として魅力のある人財』『チームケアを実践できる人財』『専門性を持って指導や育成を実践できる人財』の3つの柱を基本とし、育成指導の実践をしています。新人教育では、新規採用職員研修(プリセプターシップ)・新人対象専門研修・新人フォローアップ研修を導入し、新人職員が少しでも早く職場と介護業務に適應できるように、一定期間、先輩介護職(プリセプター)がモデルをしながらマンツーマン方式で介護実践能力を教育し、新人職員の相談役となることで、安心して一人前となるための体制を構築し、早期離職のない職場環境づくりを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年2月15日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

事業所は、相鉄本線大和駅から徒歩7分程の住宅地に立地している。かながわ認証を受賞した当事業所は、鉄骨造り2階建ての建物で、同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、運営推進会議や防災訓練などを同時開催している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所から当事業所へ移られる利用者が複数おり、利用開始前に当事業所の職員や利用者顔と顔を合わせる機会も多いことから、利用開始時の安心につながっている。

【利用者の好みや習慣を日々の生活やイベントに反映した支援】

利用開始前に利用者の住環境や生活歴を確認し、入居後は日常会話や職員とふたりになれる散歩時、入浴時などに利用者の思いを聞くように努めている。意思疎通が困難な方の意向の把握は、動作や表情が切り替わる時などを見逃さぬよう努め、把握した情報を共有している。登山が趣味だった方には、60分程の散歩、愛煙家の方には決められた場所での喫煙を支援している。好みに合わせた特別食や料理レクのイベントを企画し、皆で食事を楽しむなどに好みや習慣に配慮した支援を実践している。

【職員を育てる取組み】

管理者が作成した「愛成会教育指針」を基に、新人教育などプリセプターシップを導入し、職員を育成している。内部・外部の研修受講状況を「研修実行表」で把握して、必要な職員に声をかけている。認知症介護実務者研修の受講費は、県の貸付制度を利用し、交通費は法人が負担している。初任者研修は、法人が主催しており無料で受講できる。認知症介護実践者研修は、勤務扱いで受講費、交通費などの支援をしている。

【地域の方と一緒に社会貢献】

大和東伸和自治会に加入し、自治会の班長として管理者が「四役会会議」に出席している。散歩時や月2回の街並み清掃実施の際に地域の方と挨拶を交わしている。コロナ禍で演芸などのボランティアの来訪は中断しているが、事業所は、ペットボトルキャップの回収ボランティアを長年継続しており、地域の方がキャップを届ける為、事業所を訪れている。ペットボトルキャップは再生プラスチック原料として換金され、様々な社会貢献活動に充てられている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヴィラ愛成	
ユニット名	一階 愛	職員数8名

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	ヴィラ愛成	
ユニット名	二階 心	職員数8名

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念に「社会貢献」の記載があり、清掃活動等少ないながらも行っているが、職員全員の事業理念把握は出来ていないので、研修等で周知させていきたい。	法人の理念「社会貢献」を事業所の理念にしている。理事長が理念についての講話を行い職員に周知している。また毎年、事業計画で確認している。利用者の本位と権利擁護を最優先としたサービスの提供に努め、利用者に自由にのびのびと暮らしてもらうように支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で減ってしまったが、清掃活動でご近所を回ったり、施設の挨拶まわり時、利用者様も散歩がてらに一緒に行くこともしました。	大和東伸和自治会に加入し、自治会の班長として管理者は「四役会会議」に出席している。散歩時や月2回の街並み清掃実施の際に地域の方と挨拶を交わしている。コロナ禍で演芸などのボランティアの来訪を中断している。事業所はペットボトルキャップの回収ボランティアを長年継続しており、地域の方が事業所にキャップを持参している。このエコキャップ運動を介して地域の方と一緒に社会貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会・民生委員への挨拶時や避難訓練参加時等コミュニケーションの中で話しあり。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催はしておらず、報告のみの状況。	運営推進会議のメンバーは、自治会会長、自主防災会会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、大和市介護保険課の職員、事業所の職員である。コロナ禍の現在は、概ね偶数月に書面送付にて実施している。議事録と活動状況などを送付する際に、コメント欄を設け意見を受け付けている。「応援しています」などの労いの言葉はあるが、特段の意見は寄せられていない。	利用者・家族等に、運営推進会議のメンバーに加わってもらえるように働きかけをし、更に充実した会議になることを期待します。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実情やサービスの報告は特にしていないが、連絡をとる機会は多くあります。	市の介護保険課には、介護保険認定更新時や事故報告、成年後見の事案があった際などに訪問し、利用者の様子を伝えている。生活保護費を受給している方がおり、生活援護課の職員と連絡を取り合っている。市主催の感染症のオンライン研修に参加している。	
---	---	--	-------------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることはありませんでしたが、委員会を開催しており、引き続いて身体拘束をしないケアを心がけています。	「身体的拘束ゼロの為の指針」を定め、現在毎月、委員会を行って、フロアへのセンサー導入の可否などについて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束に関する研修は、令和5年3月に「身体拘束廃止を進めるための18のチェックポイント」を用いた研修を予定している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックにならないよう、利用者様への言葉遣いは職員間で注意し合っている。	指針を整備して、高齢者虐待防止マニュアルに基づく研修の実施、虐待の早期発見や発見後の対応などを明示している。令和5年3月に「高齢者への虐待チェックリスト」を用いた研修を予定している。管理者やリーダーは、職員のストレスが虐待につながる事を理解し、コミュニケーションを密に図り、注意を払っている。	会議録の整備や指針の共有を含め、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みについて、再確認することを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会はあるが、日常生活自立支援事業や成年後見制度は少数の一部の職員が知っている程度。今後この内容研修をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、読み合わせと説明をしながら質問を聞いており、後から疑問に思うことがあれば問い合わせてくださいと伝えていきます。		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に関する意見は今までにないが、今後意見を受けた場合には反映させられるよう話し合いと検討していきます。</p>	<p>生活の様子と医療健康面について記載した「サービス提供に関するお知らせ」に写真を添付して毎月家族などに送付し、利用者の様子を伝えている。また、事業所の様子をブログで発信している。家族の意見・要望は、来訪時や電話連絡などのやり取りで把握している。原則家族対応になっている専門医の受診について、職員の同行を希望する声が上がっているが、現在、職員配置の関係から対応できない旨を家族などに伝えている。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の関係性が近いので、常に意見を言い合える状況にあります。	職員の意見・提案は、管理者が日々の会話やミーティング、毎月のユニット会議、年1回の個人面談などで聞き取り反映している。ユニット会議は、原則全員参加とし、夜勤明けで参加できない職員には、SNSを活用し情報を共有している。職員は、利用者のケアにおいて意欲的に提案し、実践している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々に面談する機会を設けて、職務やケアに対する目標設定や、それに対するアドバイスをしています。	管理者は、ストレスマネジメントの手法を参考に、出勤時の職員の打刻の様子などからストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係の把握に努めている。有給休暇の取得は、希望に沿えるようにしている。人事考課制度があり、職員は業務に前向きに取り組んでいる。5年以上勤務している職員が多数在籍している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制度実施しています。又、同法人内での研修も来年度に予定しています。	管理者が作成した「愛成会教育指針」を基に新人教育など、プリセプター制度を導入し職員の育成をしている。「研修実行表」で内部・外部の受講状況を把握している。認知症介護実務者研修の受講費は、県の貸付制度を利用し、交通費は法人が負担している。初任者研修は、法人が実施しており無料で受講できる。認知症介護実践者研修は、勤務扱いで受講費、交通費などの支援をしている。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者同士の交流機会はなかなかありません。包括支援センターの研修会等参加していきたい。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同一建物内の小規模からの入所の利用者様は、入所前に顔を合わせる機会も多く、多くの職員と関係を築けています。外部からは事前に情報を得て状態把握に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前、開始時にケアに対する要望等聞いています。全ての要望が受け入れられる訳ではなく、出来る事と出来ない事やご家族様にお願いする事など話をしてしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々なことが分からずに不安でいる場合が多いので、十分な説明と、困りごとはないか等声掛け・傾聴するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位の理念の共有。共同生活を支援する意識をもって接しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以前の方が関係が築けていたが、『本人と家族の絆を大切に』といったところでは、用事で施設とご家族と電話をした際にご本人と変わる等関係性良好に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ブログを定期的に更新しており、周囲には見てもらえるよう伝えてはいるが、宣伝が十分ではない。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。友人や知人の来訪があり、家族対応と同様の窓越しでの面会を実施している。電話や年賀状の取次ぎ支援をしている。自己管理を下に携帯電話を所持している方がいる。職員は、利用開始以前からの生活習慣で脳トレに取り組む方や、毎朝珈琲を飲む方、指定の場所で喫煙する方の継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でコミュニケーションが良好にとれる方も多くいます。それが難しい利用者は個々の性格に配慮して職員が間に入り関係性を築くよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には連絡をとることもあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の健康観察以外に、利用者様の声・声にならない声や思いに寄り添うように努めている。	職員は、利用開始前に利用者の住環境や生活歴を確認している。日常会話のほか、職員とふたりになれる散歩時や入浴時に利用者の思いを聞く機会も多く、聞き取った情報はケース記録に記載し情報共有している。意思疎通の困難な方には、動作や表情の変化などを見逃さないようにして意向の把握に努め、支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居するまでの生活歴や人柄、好み等ご本人やご家族から情報を得て、その人個人に興味を持って接しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設では大まかな生活パターンがありますが、日中の過ごし方であったり、起床時間や食事時間で個々の差別化を図っています。			
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーは、ご本人・ご家族・現場職員から情報や意見を聞いて介護計画書を作成しています。	介護計画は、モニタリングの課題確認を基にニーズを把握し作成している。利用者・家族の要望や医療関係者の意見も反映している。短期目標は6か月、長期目標は1年ごとに見直し、状態に変化があれば随時見直している。介護計画のサービス内容と提供サービスの実施状況を確認出来るように記録の方法の改善を検討している。		

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録に残して、必要があれば申し送りをして情報共有をしています、</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で要望に沿うことが減った部分あります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の近くに住んでいた方は散歩で馴染みの店に顔を出して関係を支援しました。継続していきたいです。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を変更してもらい、医師・看護師・薬剤師と連携して適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者全員が協力医療機関（内科）と契約して月2回の訪問診療を受けている。歯科医は、希望者と契約して毎週来訪し治療などを行っている。専門医の受診は、家族付き添いによる通院を基本としている。受診結果は、個人ファイルに記入し共有している。看護職員が週2回、利用者の健康観察をしている。訪問マッサージを利用している方がいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と随時連携をとり、様子を見ていいか受診に繋がった方がいいか等相談できています。気づき・相談シートの使用開始。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院した際には定期的に入院先に連絡をして状況確認をしています。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り及び急変時や重度化した場合の対応指針の同意をいただいている。その時が来たら再度の説明して意向を確認しています。	契約時に「看取り及び急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」で、事業所が看取り介護を行う事を説明し同意書を得ている。医師が終末期と判断した際に、積極的な治療はしないという看取りの考え方や、介護について家族等に説明し再確認した後に、看取りに取り組んでいる。その際に看取りが未経験の職員には、管理者が看取りについて職員に応じた話をしている。本年度は、2名の看取りを経験している。令和5年3月に看取りの研修を予定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修をしているが、全員の参加は難しいため定期的には実施していません。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。又、地域の避難訓練も参加予定です。	事業所の災害リスクを把握し令和4年4月と5年2月に夜間も想定した避難訓練を実施している。災害備蓄としてツナコーン、鶏ごぼうの缶詰などの食料と飲料水を3日分準備している。自家発電設備がある。業務継続計画を作成し基本方針に、瀬谷区と連携し、特別避難場所として緊急避難者（要介護者）5名受け入れることを明示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修をしていると共に、職員間で今の声掛けはどうだったか？等の話をしています。	トイレ誘導の声かけは、周囲に気付かれないようにしている。居室の扉は、室内から施開錠が出来る為、プライバシーが保てる。同性介助の希望に応じ、往診時に肌が見えるなどの診察は居室で行っている。個人情報に関わる書類は施錠管理し、パソコンには、パスワードを設定している。職員は、利用者の話した事を否定せず傾聴に努め、人格を尊重するように心掛けている。契約時、家族等に個人情報の必要最小限の範囲での使用や、写真使用の際に個人が特定される住所、氏名は一切記載しないなどの一文を記した同意書を提示し同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープクエスチョンが難しい方にはクローズドクエスチョンにすることや、質問内容をわかりやすくするよう意識しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れの中で、極力その方のペースを配慮して支援するよう努力しています。			

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人による衣類の選択や鏡前にて自身で整容してもらっています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器拭きの手伝いをしてもらっています。月に1～2回、お食事レクの取り入れもしています。	専門業者の配送される献立に基づいた主菜や副菜を温めて提供している。汁物とご飯は職員が作っている。利用者は、下膳や食器拭きなどを自分が出来ることを行って、食事に関わっている。ヨーグルトなどの個人の嗜好品に対応している。事業所は「料理レク」や月1回の「特別食」を実施している。手作りの肉まんや春巻きを作ったり、寿司を購入したり、様々なパンを購入し、利用者に好みのパンを選んでもらうパンバイキングを行って、食事を楽しめるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のすすまない利用者様には好きなものを、その方により食事形態を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛け、要介助の方には声掛け・見守り・介助でケアを施行しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のない方、自らお手洗い行かない方は声かけてトイレ誘導し、便器に座ってもらっています。	ケースで把握した排泄パターンに基づく定時誘導、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠を優先し大きなパットを使用する方や定時誘導をする方など、個人の特性に合わせて支援し、体位交換も行っている。個々のリズムを大切にして状態を維持できるよう、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促す声掛け、ただ「飲んでください」でなく「お通じに良い」等理由付けをすると、摂取が少しすすみます。運動での便秘解消は難しいです。		

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>施設では曜日で入浴者が決まっているが、本人希望で断られた際は別日に設定しています。体調等様子で清拭への変更もしています。</p>	<p>入浴は概ね週2回、利用者が気持ち良く入浴できるように湯は好みの温度にしたり、ゆったりと湯船に浸かりたいという個々の希望に応じている。朝や晩など、時間帯の希望があれば、可能な限り対応している。入浴を好まない利用者には、時間や職員を変えて対応しているが、無理強いせず足浴や清拭を行うこともある。1対1での職員との会話や、入浴剤を使用した湯船、好みのシャンプーを使うことを楽しみにしている方がいる。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごす利用者様が多く自室へは昼寝がしたい時等ご本人の意思で移動しています。寝具は一週間に一度洗濯をして清潔保持しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で利用者様の排便状況の把握をして便秘薬の調整をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた手伝い事や手作業、好きな方は折り紙等を好みに応じて提供するように努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周囲の散歩や公園へ行っていたが、コロナ禍で全く出られない時もありました。コロナ禍以前ではご家族による連れ出し外出もありました。	天候の良い日には、車椅子の利用者も含め、散歩に出かけている。登山が趣味だった方は、60分程散歩に出かけている。外出を好まない方にも必ず声をかけて庭先などで外気浴をしている。ドライブに出かけ車窓越しでお花見や紅葉狩りを楽しんでいる。現在、コロナ禍で密になる可能性が高いため、利用者と一緒に買い物の支援は、中断している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理をしている方は少ないが、買い物支援等していました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設でご家族と連絡電話をした際にはご本人に代わって会話出来るよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調調整は皆様に伺いながら、必要があれば座っている場所を変えたり着ているもので調整をしています。 室内飾りについては、季節感を取り入れるようにしています。	共用空間の温湿度管理は、気を配っている。空調の風向きや個人差が大きい温度調節には特に配慮しながら、換気を行っている。座席を決めずに、その時の雰囲気や利用者間の相性なども考慮して居心地よく過ごせるようにしている。季節行事の写真や工作した物などを飾っている。玄関先やベランダに花や野菜を植えて、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で、必ずしも座席を決めずに、その時の雰囲気やご利用者間の気の合う合わない等 考慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様によっては馴染の物を持参されており、写真を飾っている方もいます。	居室には、洗面台、エアコン、照明、クローゼット、ベッドが備え付けられている。防災カーテン、仏壇、冷蔵庫テレビ、机、椅子、収納ケースなどの好みの品や写真などの思い出の品が持ち込まれている。生活を楽しむ一環として、居室に花を飾る方もいる。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援として介護者が主体で行うのではなく、その方の生活をサポートする意識を持って日々取り組むように努めています。		
----	---	---	--	--